

令和 5 年度第 1 回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023 年（6）月（7）日（水）9 時 30 分～11 時 30 分

【会場】 岡崎市役所福祉会館 6 階大ホール

【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」

【講師】 1 日目：木全和巳さん（日本福祉大学）、2 日目：佐々木将芳さん（静岡県立大学）

【クラブ】（ なかよしクラブ ）

【名 前】（ 吉川 美里 ）

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

数々の研修の中で、今回初めて自分のクラブの指導員同士が全員一つのグループ という形でグループワークを行いました。なかなかそのようなチャンスに恵まれませんでしたが、次々と良いアイデアが出され、意見交換が出来、一緒に考える良い機会となりました。

育成センターでの事例でしたが、基本情報の追加として、少しでも理解しようとたくさんの質問がありました。その情報を基に様子を浮かべ想像し、把握や整理をすることにより時間を費やしました。考えていく上でそれとても重要なことだと感じました。

配慮が必要な子どもへの育成支援についての事例で、私たちのグループは“自分がその子だったらどう思うか、感じるか”というところから話し合いました。“その子は本当はどんな思いだったのか、なぜ困っているのか、なぜそうするのか、どうしたいと思っているのか、今後どう働きかけしていったら良いか、支援の方法は？”と、いつものカンファレンスを思い出しながら考えていきました。そして家庭環境や背景もしっかり頭に入れて考えていく大切さを学びました。研修の最後に自分のグループの発表をしました。数分しかなく、講師のまとめの時間がなくなってしまわないか気になって、みんなで話し合った考えを半分ほどにしてまとめて話してしまったことが少し後悔です。もう少し上手く要点を伝える努力をしていこうと思いました。

講師から、話し合いの内容をホワイトボードなどに文字化して確認することや、手立てや立ち位置を意識することがポイントという話がありました。子どもの衝動的な行動について、タイムアウトとして刺激の少ない場所に移動したり、深呼吸するのも一つの方法です。他には、療育機関と連携し、保護者、子ども、指導員みんなで話す機会を持っていても良いということでした。自分が本人になって一度“思い”を文章に書いてみる＝困った時は研究者になると良い！という最後の講師の言葉が強く心に残りました。この内容では、落ち着ける環境づくりや環境調整がとても大切だと分かりました。

今回のグループワークのように、指導員同士一人一人の持っている力を出し合い、一緒に考えて保育に活かせるようにしていきたいです。